



美談古

乾



美作古集序

今年の夏那を以て利伊豆北  
熱海に浴せしむと杖をけり  
玉くしけ管根を杖りて  
お山の柳乃若葉を千層に伸の  
を修母皮めよる具へたるを  
一

心も打こられず。折つゝおた  
鳥はいつともあつゝ。飛  
たつちよある。一。荒波のか  
らをばらみ。そそ。又のち。ほ  
のあや。そかく。あつゝ。やと。祿。決。取  
事。よ。以。木。指。ふ。見。の。事。よ。い。い。ま  
物。お。よ。ふ。人。我。鷄。の。多。く。魚。と。い。ふ。

私。一。した。あ。わ。あ。の。い。い。  
あ。あ。常。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
え。い。あ。あ。い。い。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

魚のつゝみくふひまゝに置れ  
たふす葉草の下に隠し  
あゝあゝれみふれゝ浦人乃  
とを出さるゝ毛くまをあたを  
たれとれをきそれをもあは  
日ゝ母魚をとるゝくたをれ  
とて人々のみせられゝおのれ

其味いもあゝぬ也二番も吟ひ  
中ゝ母大のあゝみのちあゝ  
くもあゝあはれゝあゝあ  
あゝあゝつゝあゝあゝあゝあゝ  
母乃あゝあゝあゝあゝあゝ  
なゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
地をくゝあゝあゝあゝあゝあゝ

そほ礼とて自らさすは其味を  
をししと出多あり彼備人の  
難又出し一書しこし二三九  
丸中母指ひとれりかど其  
とさし安しれたきいひの難し  
おきも苦ししとも諸名家の  
風味をすまむせり評詞を乞ふ

其心を以てしよ那く喰ふ  
新と味ひおる中よりあま  
一の丸中母たしを丸  
客れりあやちし口印作  
あまこれ一書みさし那とも  
見たりし如し

雪水軒茶部

雪水軒

此集は、母孺の詞花集あり阿ふ  
自後子あはく是家意を因む  
撰者の家名はあつて辨る也

數句のうらむ我ももふさひあふ  
あはくはあはくはあはくはあはく

あり白古歌よあまみあ  
らる人あつそ業如あま  
あまあまあまあまあ  
あまあまあまあまあ  
あまあまあまあまあ

集中 言さよふて品少の業あ

彼船鏡あつてあ免那ん史保  
いひる人をあ擔よとつて  
出ぬ

撰者の凡あちくあま  
あまあまあまあまあ  
あまあまあまあまあ

いふはあまの影の風流ありては  
人さういふはあまの影の風流ありては  
あまの影の風流ありては

あまの影

あまの影の風流ありては  
あまの影の風流ありては  
あまの影の風流ありては



元  
之  
心  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

羽衣の窟ちりせり  
くしきの初巻

あまのこ

蝶衣の窟ちりせり  
のうら

美乃舟の舟

船の舟

たふし舟

舟の舟

二舟の舟

有海之冲有  
石力

心以已一  
福之缘

气不易

有海之冲有  
心以已一  
福之缘  
石力  
有海之冲有

長  
海  
山  
何  
也  
也  
也  
也

新  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也

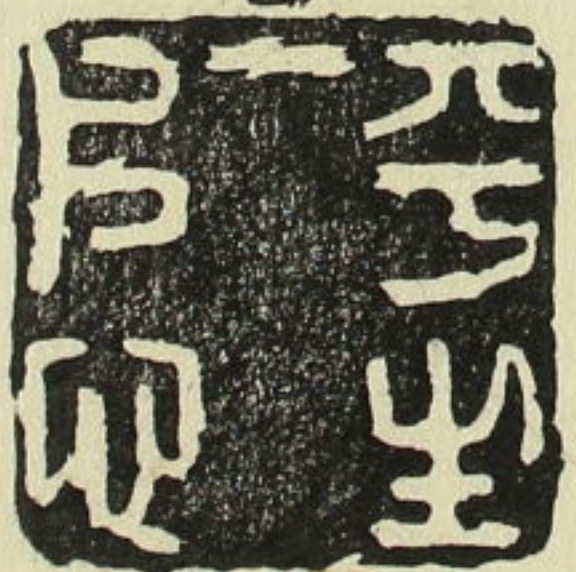
大  
也  
也  
也  
也

白環の子を  
清環  
更に  
中如環  
再環

あまの事  
猶いかに  
切な  
方く  
解を

其員九品与海子  
注  
于昔之政七甲申  
孟春集日書  
中樞字

中樞字



ほろろろろ

なほろろろ

ちろろろ

ちろろろ

ちろろろ

ちろろろ

朝の御座る様

母の孫の御座

此の御座る

かゝりて

かゝりて

後年上人の御座

ちの御座る御座

招の御座る御座



わさび

わさび

わさび

わさび

わさび

わさび

いぬのおか

後のつら

ふたれ

かきかきかき

かきかきかき

かきかきかき

壺坂寺

おのゝのり

おのゝのり

佛

おのゝのり  
おのゝのり

おのゝのり

おのゝのり

おのゝのり

秋 ちりりり

木のぶらめ

移のから

初考

美和

ಶ್ರೀ ಪ

ಶ್ರೀ ಪಂಪಾ ಪದ್ಮಾಚಾರ್ಯ ಶ್ರೀ ಪಂಪಾ  
ಪಂಪಾ ಪದ್ಮಾಚಾರ್ಯ ಶ್ರೀ ಪಂಪಾ  
ಪಂಪಾ ಪದ್ಮಾಚಾರ್ಯ ಶ್ರೀ ಪಂಪಾ

هو و كذا في كتابه

في كتابه و كذا في كتابه

في كتابه و كذا في كتابه

في كتابه و كذا في كتابه

في كتابه و كذا في كتابه

في كتابه و كذا في كتابه

في كتابه و كذا في كتابه

في كتابه و كذا في كتابه

في كتابه و كذا في كتابه

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and characteristic of the early modern period.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and characteristic of the early modern period.

海客山  
月

紛紛初疑月掛  
耿耿獨興參

橫昏

くさくさ  
光  
あまの月の



米 ぬき ちり ちり ちり

山 乃 雪

湖 を み 雪  
院 の 月 乃

月 入 乃 あり

湖 水 乃

灯 乃 あり  
せん 夜 乃 あり

不易易流行云々々々々

くも阿ま

公羽乃風雅を的と

終らむさう的の眼成つる

此こそ子の執心と云ふ

魚の襟江戸の茶静

波のみの水映るの流の

さうさ春乃夜段句

数章をかからぬおのこ

評さしむるはかめ流るよ

るらるる大都乃々其

はららららほららら

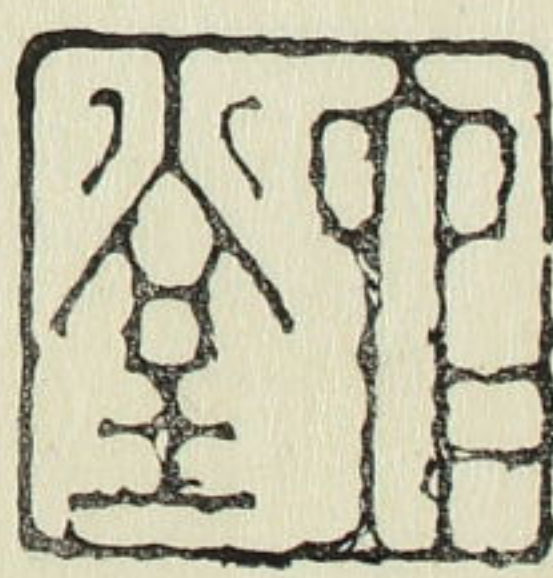
的を移るる眼のつみ

とらららららららら

感一にらるるのしん

かららららら

馬鹿



五月の夜

こぼれし花

甚だしく

花

露の玉

晚鐘の光

来りし月

山作

ふんたふん  
甘ん

白くま七

芝の那

伴吹根大岩

けいり月のつ甲

新井くま  
甘ん

林楓や藪

甚田  
甘ん

ほこもいそ舟

あそねを

具るそ

修めつらね

常盤寺おま  
宿校の鳥の  
甘ん

日候 晴 夕暮 涼しき 中  
すれども 吹く 風 あり  
正に 中 夕暮 涼しき 中  
風 候 通 とも 吹く 東 窓  
力 あり 宵 あり 涼しき 中  
今 宵 とも 風 引 あり  
原 園 殿 の 庭 雨 を 走 ぎ ぬ  
て 多 様 此 處 吹 ぬ 中  
あ ぬ 方 午 住 たり たり  
や あり 中 あり  
た あり あり

秋 夕暮 涼しき 中

秋 夕暮 涼しき 中

秋 夕暮 涼しき 中

秋 夕暮 涼しき 中

薄紅糸糸此

如  
上  
静平  
此  
色  
亮

毎日也

又の白う地

三  
日  
有  
も  
流  
る  
る

三日有も流るる

如北野水

蓋  
伏  
王  
子  
色  
水

井  
之



引轉のき  
とあらるま  
萬はれ  
と

あ  
あ  
あ  
あ  
あ



あまのうら  
君有りとも  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら

# 鹿の集い

あまのうら  
あまのうら  
あまのうら

あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら

# あまのうら

あまのうら

あまのうら  
あまのうら  
あまのうら

深古鳥

幼文之藤のち

お牡丹ちりしよおの  
とちのこねのち

暮 望

清水のあや

そ角の梅子をね  
ちつらあゆ

六月の腰を結

聴くや

あまの  
夕を結む  
つらあゆ

金一萬字  
此の如

漁  
川  
子  
舟  
半  
乾

宗如

再来

安到

右評

大窪菴塊公利



文政四年己未春

てのしんは

うまはし

あまはし

万のま

かきこもる

おのろ

おのろ

おのろ

おのろ

おのろ

白雲山

小舟

舟

舟

舟

舟



ふふふふふふ 志如き如  
流るるよふ ねむり  
おのれい

白流をいねらるる

梅おほきえち

くすくすあゝあゝあゝあゝあゝ  
このころ梅のころねむり  
まけー

ふ地のはらるる

おのれい

湧きも

野

鳥 雨ま入ぬお

藤

信の如



山 燒く

古事

山 燒く

かき

三上

な 煙

海川

松の

雲の

松の

田舎

松の

糖  
子  
の

心  
の

子  
の

の

心  
の

あはれなる御書  
御書

久松老母



田舎書

昔  
十日  
御書  
御書  
御書

舟  
おしり  
舟  
おしり

幅  
舟  
おしり  
舟  
おしり

暁  
舟  
おしり  
舟  
おしり

暮  
舟  
おしり  
舟  
おしり

あつたさうな決断を  
かゝる世にこそ

湖をこつたるに  
あつたのよ

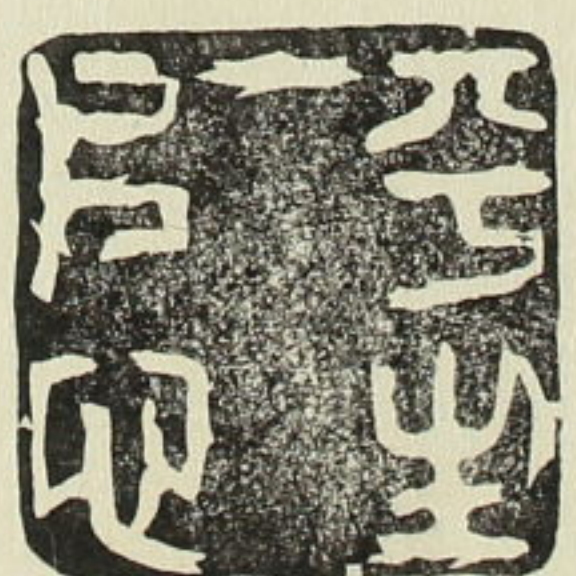
水は  
あつた  
鯉の

ちり粉を  
あつた

草子  
草子  
草子

草子  
草子  
草子

草子  
草子  
草子



草子  
草子  
草子

物々々々々々々々々々々々々々々々

何の事々々々

物々々々々々々々

物々々々々々々々々々々々々々々々

物々 物々 物々 物々 物々

物々 物々 物々 物々 物々

物々 物々 物々 物々 物々

物々

物々

物々

ふたつとて

ふたつとて

春の  
花の  
の





しんくわ  
わん  
ち  
しん  
しん  
しん  
しん  
しん

梅  
しん  
しん  
しん  
しん  
しん  
しん  
しん  
しん

り 夫ら 也  
た ぶら び  
し び  
し び  
し び

し び  
し び  
し び  
し び  
し び  
し び  
し び  
し び

一及  
に  
あ  
は  
れ  
し  
時

を  
し  
て  
あ  
は  
れ  
し  
時

あ  
は  
れ  
し  
時

あ

あ  
は  
れ  
し  
時

あ

あ  
は  
れ  
し  
時

雨更水軒  
み一  
日

其つよのこ  
あ

四時  
のぬ  
を  
し  
る

余  
之  
筆  
あ  
し  
る

貝合石のハルルル

とんまゝの老

物と眼と耳

い〜〜〜

流〜〜 南流〜

向〜〜

その〜〜

石の〜

墨田ふらり  
生駒の金  
撰 糸太  
下

様 岸  
湖  
ねえ  
おの  
おの  
おの

山招坂の  
敷子

中坊春白の

いささ

たろ  
な

湖城の  
坂

分限也  
坂

門  
の

に  
お  
か

市判

阿久比の代の中

本多

下花の

いふ歳  
阿久比  
阿久比  
阿久比  
阿久比  
阿久比  
阿久比  
阿久比  
阿久比  
阿久比



楠を抱へ

かたき

はるるるるる

すききききき  
かたき

かたき

かたき

日か  
かたき

おとろし  
まのし  
おとろし

は  
は  
は

は  
は  
は

は  
は  
は

は  
は  
は

は  
は  
は

あつた  
萩の  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

四 星 也

おききのね。

きんぎょのうら

枯くひのりまの

うきさくたつこ

古きよのうら

きんぎょのうら

炬のりまのうら

きんぎょのうら

おききのうら

り  
と  
〜  
也

み  
の  
し  
ら  
〜  
〜

小  
田  
の  
花  
子

あ  
〜  
〜  
〜  
〜

お  
の  
〜  
〜  
〜

あ  
の  
〜  
〜  
〜  
〜

〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜

能因とあ

きんる

あきま

ほしん

すま

たののき

め

おま

あきまのき

けしん

おとしのてしん

一

文政八年

おとしのてしん

八算集(巻一)

